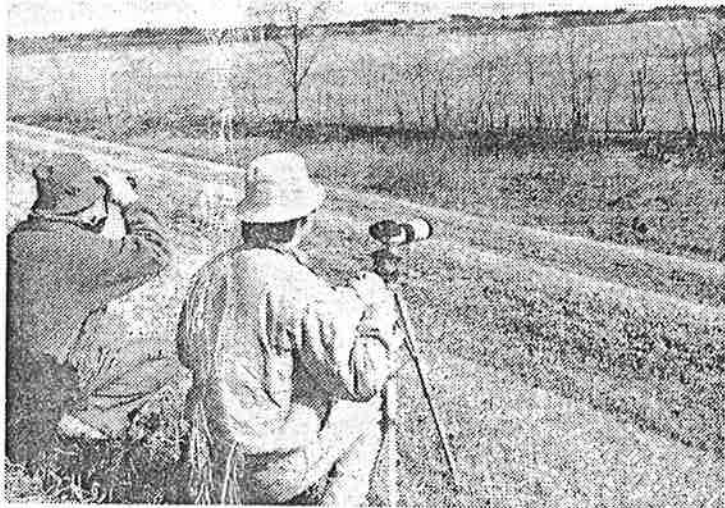


1992年2月15日

木 坂

遊水地は「野鳥の楽園」

自然保護団体 渡良瀬で生息調査



貴重な自然を守ろうと、ワシタカ類の生息調査をする「日本野鳥の会」県支部の会員

＝藤岡町の渡良瀬遊水地で

オオタカなど113回確認

—ワシタカ類はぐくむヨシ原

ゴルフ場など開発が進む渡良瀬遊水地の貴重な自然を見直そうと、渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会（高松健比古連絡責任者）はこのほど、現地でワシタカ類の生息調査を行った。「日本野鳥の会」県支部の会員十六人が参加し、協力した。三千三百坪の広大な遊水地の七カ所で定点観測した結果、チュウヒやオオタカなどが計百十三回確認された。高松連絡責任者は「今回は予備調査だったが、ワシタカ類の東日本最大の越冬地としての一端がわかった。これから植物や昆虫などの調査を続け、自然保護を訴えていきたい」と話している。

同協議会は、利根川流域の一部六県の自然保護団体が構成され、遊水地の乱開発などの問題に取り組んでいる。特に第1貯水池建設や新たなゴルフ場造成が計画されているため、野鳥や植物の宝庫である遊水地の自然が損なわれる恐れがあると、勉強会や写真展などを開催している。

これまで遊水地の野鳥や植物などについては、地元・藤岡町のアマチュア写真家、寺内為敏さんと県立足利高校教諭、大和田真澄さんなどが個別に実態調査していたが、組織的な調査は今回が初めてだ。

調査は午前十時から午後二時まで、「日本野鳥の会」県支部会員でオオタカ保護ネットワーク事務局長の遠藤孝一さんが中心となり、ワシタカ類の種名や個体数、個体の性別や色、観察時間などを記録した。

調査結果によると、チュウヒ六十九回、トビ二十四回、ノスリ十五回、ハイイロチュウヒ二回、オオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウが各一回、それぞれ確認された。この数値は出現回数を合わせたもので、個体数については、参加者の

意見を総合してチュウヒが最低十三羽、ノスリが十羽以上いるなどと判断された。

高松連絡責任者は「ワシタカ類の活動時間は朝八時前後と夕方のため、今回の

調査の時間帯がよくなかった。それにしても、残されたヨシ原がワシタカの猛禽（もうきん）類にとっぴかに貴重かがわかった。四月から正式な動物調査を始めた」と話している。